

明日 への 話題

スタートアップ 企業の エコシステム



日本証券業協会
会長

もり た とし お
森田 敏夫

スタートアップ企業の育成に向けた議論が活発である。本協会でも公開価格の設定プロセスの見直しに着手した。SPACなどの議論も始まっている。

そうした取り組みの必要性は否定しないが、この問題については、もっと本質的な考察が必要ではなからうか。

私の勝手な思い込みも含め、四点程思う所を書いてみたい。

まず一点目である。そもそもの起業を増やすためには、失敗を恐れずチャレンジする起業家精神（アントレプレナーシップ）の醸成が不可欠だ。日本においては、この失敗に対する許容度が低い。前向きな失敗を許容する文化をつくっていかねばならない。例えば、倒産すると個人資産での債務返済を迫られるケースがある。法人向け融資は個人保証に頼りすぎない仕組みを考えるべきだろう。いずれにせよ、失敗してもチャレンジできる環境を整えたい。

二点目。アメリカのシリコンバレーのスタートアップ企業などを訪問すると、自分達の力でイノベーションを起こし、世の中を変えるんだという気概に満ち溢れている。日本でもそういう気質を育て上げていかなければならない。そういう意味では、教育から変える必要があるのかもしれない。`間違えないための教育、から`新しい事を創造していくための教育、へ。

三点目。成長するスタートアップ企業にヒトとお金に向かうダイナミズムを作る事が重要だ。

その為には、労働の流動化に向けて、法令の整備を含め、柔軟性を持った雇用体系の検討が必要だ。

また、非上場企業に資金調達できる環境を整える必要がある。この点については、日本における投資家の厚みと多様性を目指していく事が必要だろう。

四点目は、今述べてきた三つの事をスピードを持って変えていくための方策として、日本のスタートアップ企業に大きな刺激を与える、世界の企業やプロの投資家を誘致する事が重要だ。国際金融都市構想はそのような視点からも考える必要がある。

以上四点述べてきたが、幸いな事に、大学発スタートアップも含め若い人たちの間で、起業に向けた動きに変化が見られる。

今こそ、スタートアップ企業のエコシステムを確立し、世界で活躍できる多くのユニコーン企業を育てていかなければならない。

リスクマネーの流れは、そうしたエコシステムの中でも重要であり、証券業界の果たすべき役割も大きなものがあると思う。本協会もエコシステムの構築へ、積極的に貢献していきたい。